

平成25年9月の「きになる通信」

「レトロ建築」建て替え続々 — 往時の粋まとい再生

レンガや壁など再利用 大阪中心地の「顔」に



大阪の中心地で「レトロ建築」と呼ばれる洋風近代建築物が、建設当時の姿をとどめる形で次々と建て替えられています。レトロ建築は長年親しまれた「街の顔」で、地元住民らの愛着は強いようです。レンガなども手作業でいったん取り外し、洗浄するなど手間も費用もかけられています。専門家は「近代建築物は街の歴史そのもの。寄付を募るなどして多くの手で守っていく必要がある」と話しています。

大阪・中の島の「新ダイビル本館」

旧大阪農工銀行ビルの跡地などに建設されたマンション

三井住友銀行の大阪本店ビル

(2013年8月1日 日本経済新聞記事から抜粋)

間貸しで賢くマイホーム — 将来の子ども部屋 他人に

家賃収入、ローンに充当



マンションの一部を他人に間貸ししながら住むスタイルが登場しました。ローンの返済負担を抑えたり、子どもの成長に合わせて長く住めたりするのが特徴。

他人がそばにいる状態で住むことを気にしない団塊ジュニア以降の世代の柔軟な考え方も背景にあるようです。

(2013年8月2日 日本経済新聞記事から抜粋)

テーマは「きになる」住まいの“きになる”について考えます。

住まいのきになる通信 NO. 2

阿倍野、ミナミを猛追 — 大阪3大商業地の利用 消費者調査



日本経済新聞が実施した消費者調査で、大阪の阿倍野・天王寺の集客力が大幅に高まっていることがわかりました。「今後、利用を増やす」と答えた割合は、堺市、奈良市、大阪市などの在住者でミナミ（心齋橋・難波）を上回りました。大阪の2大商業地であるキタ（梅田周辺）とミナミを猛追しています。

キタは阪神地域で圧倒的に強く、西宮市と芦屋市の在住者の28%が「利用を増やす」と答えました。神戸市と京都市の在住者でもそれぞれ21%と18%に上りました。

阿倍野・天王寺は、東と南から高い支持を得ています。堺市は31%です。大阪市の在住者で阿倍野・天王寺はキタ、ミナミを上回り首位でした。

若者の支持が強かったのがミナミです。20～24歳と25～29歳の比率が大きい。

阿倍野・天王寺は中高年の支持が強いようです。特に60歳以上は全体の19%を占めます。

キタは、どの年齢層からもまんべんなく集客しています。なかでも30～40歳代の比率が高くなっています。

（2013年8月7日 日本経済新聞記事から抜粋）

壁痛めず棚やポスター — 賃貸でもOK 専用器具 広がる



壁を傷めずに家具などを取り付けられる器具が増えています。

小さな穴をあけるだけで済み、賃貸住宅でも壁を有効利用できます。部屋のレイアウトも広がりそうです。

（2013年8月23日 日本経済新聞記事から抜粋）

テーマは「きになる」住まいの“きになる”について考えます。

住まいのきになる通信 NO. 3

老朽マンション売却促す — 政府検討

住民合意 8 割に緩和 住み替えへ財政支援



政府は、古いマンションの解体や売却をしやすくする規制緩和の検討にはいりました。マンションの所有者全員の合意が必要なルールを改め、8割程度の合意で済む方向で調整します。住民の住み替えを支援する財政面の優遇措置もつくります。

耐震性の高い建物に造り直し、地域の防災を強化する狙いです。

(2013年8月29日 日本経済新聞記事から抜粋)

